

芸術研究科 博士前期課程 教育の3つの方針（2021年度以前入学生）

※アドミッション・ポリシーのみ2022年度年度以前入学生対象

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

認知的領域	知識・理解	諸芸術及び文化表現の歴史と現在の動向を正確に理解している。
	思考・判断	独創的かつ普遍的な表現領域の可能性を探求し、それによってどのようなメッセージを発信できるかを考察できる。
技能表現領域	技能・表現	自らの表現意図に沿って、適切な素材とテーマを選択し、状況に応じた柔軟で応用力のある制作技術、理論構築力を獲得している。
情意的領域	関心・意欲	「人間とはどのような存在であるのか」を常に問い、自らの芸術表現と時代・社会との関係性を意識し続けることができる。
	態度	自ら設定したテーマを、自分に相応しい表現方法と発表形式で具体化しようとする努力を怠らない。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

専門知識・技能を体系的に履修するとともに、批評や議論、プロジェクトなど制作以外の活動を通して、学際的な分野への対応能力を含めた専門応用能力を培うよう教育課程を編成する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

芸術研究科の各専門領域に強い関心を持ち、各専門領域を学ぶ上でベースとなる表現・研究活動歴を有し、将来その領域において研究・実践を行う明確な意志を持つ者。

芸術研究科 博士後期課程 教育の3つの方針（2021年度以前入学生）

※アドミッション・ポリシーのみ2022年度年度以前入学生対象

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

専ら理論研究を行う者については、多様性に開かれた芸術領域において、学術的見識を高め、専門性に基づく独創的な理論研究を行い芸術の発展に貢献することが求められる。

芸術・表現の実践、デザイン提案・制作等を行う者については、個々の専門領域における特殊性や高度な技能、技術、メディア等についての実践的研究を行うとともに、併行してそれらに関連する理論研究を行うことが求められる。また、それにより新たな芸術・表現、及びデザイン研究の発展の可能性やその深化に貢献することが求められる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成の方針）

幅広い芸術研究領域を以下の3つの領域と研究目的に整理し、学生はいずれかに所属して各自の研究を深化させる。

ファインアーツ領域	古典的・近代的・今日的な芸術表現を対象に研究する。 あるいは新たな芸術作品の可能性を追求する。
デザイン領域	現実社会との関係を持ちながら物や情報の美的性質や機能的合理性などを研究する。 あるいはデザイン提案・制作を追求する。
メディア領域	意識や身体性の拡張を促す多様なメディア表現の研究を行う。 あるいは新たなメディア芸術・表現の可能性を追求する。

学生に対する指導体制は、各自が所属する専門領域から選ばれる主査と専門領域の内外から選ばれる副査、および理論科目担当教員から選ばれる副査による合同指導体制とする。学生は実践と理論の両面から指導を受けることで見識を高める機会を得るとともに、現在における芸術・表現、およびデザイン領域における個々の課題が内包する多様な側面を複合的に捉え、自らの研究を深化させる。

学生はそれぞれの領域に関する実践や理論研究において、国内外での研究水準を見据えるとともに、対外的な場における高度かつ専門的な実践、提案・制作等を試み、あるいは理論研究の発表を行うことによりその検証を目指す。

博士論文の執筆において、学生は個々の理論研究およびそれぞれの領域に関する実践を踏まえたうえで、高度な専門性の理論化と独創性を追究し、専門領域の発展に資する内容を目指す。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

芸術領域、デザイン領域、メディア領域の研究に強い関心を持ち、将来学術研究者として新たな研究の領域を摸索していくことに強い意志を持つ者、研究・制作面において自立的に活動を実践するための能力を有する者、を広く国内外から受け入れる。